

岡山市の道路管理

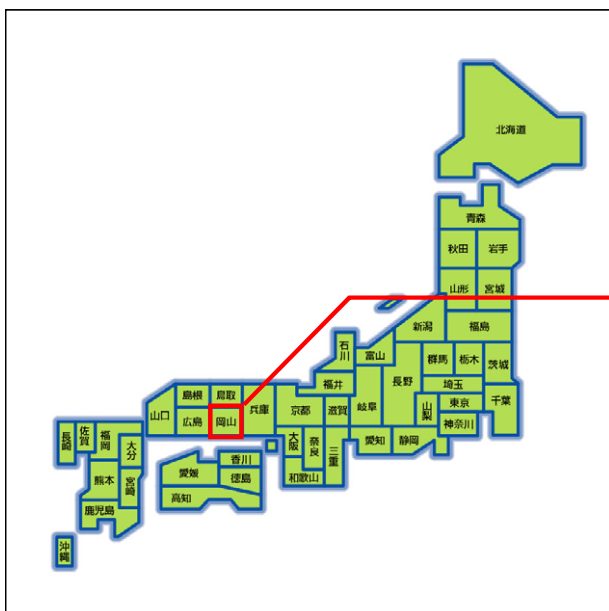
～橋梁の長寿命化、舗装の維持管理、地下道の冠水対策、道路の愛称設定～

岡山市 都市整備局 道路管理課

1. はじめに

(1) 地勢等

岡山市は、近畿と九州を結ぶ西日本の東西軸と日本海と太平洋をつなぐ南北軸の結節点に位置し、道路・鉄道・空路等の交通網が集中する中四国の要衝と言えます。



地形は吉備高原に連なる北部の丘陵地から南部の岡山平野と変化に富んでおり、市街地周辺の操山・龍ノ口山などの緑に抱かれ、水量豊富な旭川・吉井川の二大河川、そしてそれらの支流・用水がモザイク模様のように流れており、水と緑に恵まれた自然環境、温暖で晴れの多い気候、さらには自然災害も比較的少なく、大変暮らしやすい快適な生活環境を有しています。



(2) 沿革

古代より吉備文化の発祥地として栄え、市西部には造山（つくりやま）古墳をはじめ、今も多くの史跡が残っており、安土桃山時代には宇喜多直家・秀家親子による岡山城築城・城下町の形成、江戸時代には備前藩池田家による治水整備、新田開発、さらには日本三名園のひとつ後楽園が築かれるなど、現在の岡山市の基礎が築かれました。



造山古墳



岡山城

明治4年に廃藩置県の令が発布されると岡山に県庁が設置され、明治22年6月1日、面積5.77平方キロメートル、人口47,564人で市制を施行、「岡山市」が誕生しました。以後、山陽鉄道の開通や第六高等学校・医科大学の開学などもあって、政治経済はもとより、交通、教育文化、医療などさまざまな都市機能を備えた中心都市として発展していきました。

昭和20年6月29日の大空襲により、市の中心部は一夜にして焦土と化しましたが、戦後の復興事業により着実に市勢を回復し、昭和47年（1972年）には山陽新幹線の開通、昭和63年（1988年）には岡山空港開港と瀬戸大橋の開通、平成5年（1993年）には山陽自動車道が開通するなど、中四国の交通の要衝としての基盤が整い、平成8年（1996年）の中核市移行、さらには平成21年（2009年）に政令指定都市へ移行しております。

人口は現在70万人を超え岡山県の3分の1強を占めるとともに、面積は東西約35キロメートル、南北約50キロメートルに及ぶ約790平方キロメートルに達しており県土の1割強を占めています。

2. 道路現況

本市の管理道路の現況は、平成23年4月1日時点で、国道3路線、県道69路線、市道25,704路線、延長は6,458キロメートルと、規模としては政令市の中でも上位に入る管理延長を抱えております。

また、市民からの道路に対する要望も数多くあり、これに精一杯応えるべく努力しているところです。

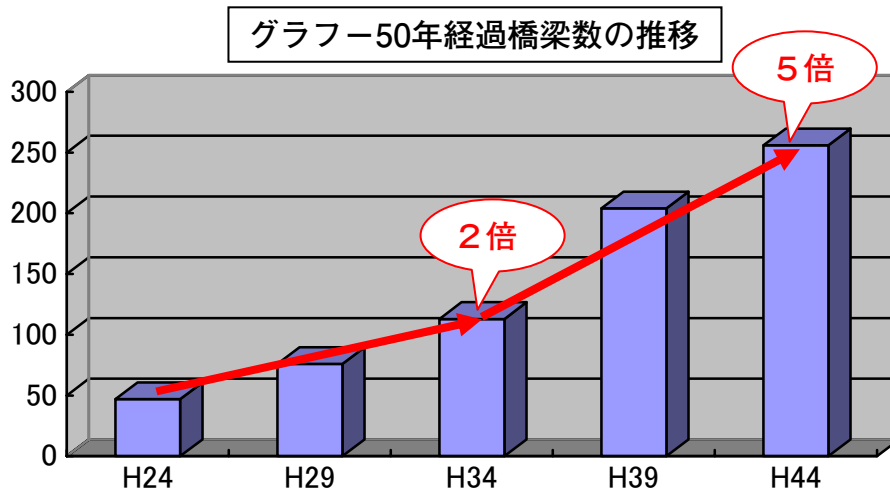
表一市内道路状況（平成23年4月1日時点）

区分	延長 (km)	改良済		舗装済	
		延長 (km)	率 (%)	延長 (km)	率 (%)
国道(指定区間外)	43.7	42.3	97	43.7	100
県道	562.9	475.1	84	562.6	99
市道	5,851.1	2,820.9	48	4,657.5	80
合計	6,457.7	3,338.3	52	5,263.8	82

3. 道路管理事業の紹介

(1) 橋梁の長寿命化

全国的にも高度経済成長期に建設された道路橋梁の老朽化による補修や更新費用の増大が懸念されているところですが、本市においても橋長 15 メートル以上の橋梁のうち、建設後 50 年以上経過する橋梁が 47 橋（H24 年 4 月 1 日時点）、10 年後には 2 倍以上、20 年後には 5 倍以上に達する見込みであり、将来増大すると予想される補修や架替費用の抑制策が急務となってきておりました。



そこで、これらの老朽化する橋梁に対し、これまでの損傷が大きくなってから補修する管理から、適切な点検と評価を行い損傷が小さいうちに予防的に補修する管理に転換し、橋梁を長持ちさせて使うという長寿命化に取り組み、補修や架替費用を抑制していきたいと考えております。

平成 20 年度から点検に着手し昨年度までに対象すべての点検が完了しています。現在、対策が必要な橋梁の実施計画を策定しているところですが、特に優先順位の高い橋梁については平成 22 年度から対策に順次あたっております。

(2) 舗装の維持管理

道路舗装は、大型車交通による荷重や気象の変化などにより、経年劣化を起し、ひび割れやわだち掘れなどが発生します。これは、安全な交通に支障をきたすだけでなく、騒音・振動などの沿道環境も悪化させる原因となるため、本市では毎年多くの舗装補修工事を行っておりますが、必ずしも計画的・戦略的には実施できておらず、補修ストックが次年度以降に積み残されておりました。

このことから、市管理道路のうち、国県道及び二車線以上の市道の合計約 2,000 キロメートルを対象に、平成 23 年度から 5 箇年計画で路面性状調査を行い、舗装維持管理指数（MCI 値）が低い区間を把握することで、計画的・戦略的な補修にあたってまいりたいと考えております。

さらに将来的には、データを継続的に収集し分析することで、舗装の劣化や最適補修時期の予測を行い補修ボリュームの調整などにより予算の平準化を図ったり、あるいは短期間に劣化が進む区間については原因に合った対策の実施により補修サイクルを延ばしていきたいと考えております。

(3) 地下道の冠水対策

近年、全国的にゲリラ豪雨が多発し、これにより地下道が冠水し車両が水没するという事故が発生しております。本市では人身被害は発生していませんが、豪雨に伴う地下道の冠水は起きております。

地下道には排水ポンプを設けるなどの対策をとっておりますが、ゲリラ豪雨を原因とする雨水の急激な集中による冠水の危険性を完全に排除することは難しいため、いざという時に必要な措置を迅速かつ適切に行えるよう、地下道出入口に冠水の恐れがある場合には冠水注意、冠水時には冠水通行止を自動表示できる電光掲示板を設け、ドライバーに情報提供することで水没事故を防ごうと、平成 23 年度から 3 箇年計画で 22 箇所の地下道に設置を進めております。

■装置の主な機能

➤排水ポンプ用貯水槽の規定水位超過

- ・「冠水注意」を電光板に表示
- ・管理者の緊急携帯電話へ自動通報（音声）

➤路面水位 10 センチメートル超過

- ・「冠水通行止」を電光板に表示
- ・管理者の緊急携帯電話へ自動通報（音声）

➤冠水解除時

- ・電光板表示を「冠水通行止」→「冠水注意」又は「冠水注意」→無表示に変更
- ・管理者の緊急携帯電話へ自動通報（音声）



冠水情報表示板

(4) 道路の愛称設定

本市では、市民の皆様に道路に対する関心を高め、親しみを深めていただこうと考え、昭和 59 年度、平成 7 年度及び平成 17 年度と過去 3 回、道路の愛称を募集しました。

一回目と二回目の際には市の方で候補路線を挙げ、その愛称を募集しておりましたが、三回目の募集時には路線の選定段階から市民公募を行いました。設定にあたっては、愛称の分かりやすさや、定着し親しまれている通称などにも配慮しております。

この取り組みを通じて、道路という空間が市民の皆様にとって、これまで以上に自分たちのものであるという愛着を持っていただくとともに、道路の維持管理にも関心を持っていただければと考えております。

表一道路の愛称一覧

昭和 59 年度決定路線		平成 7 年度決定路線		平成 17 年度決定路線	
No.	愛称名	No.	愛称名	No.	愛称名
1	西口筋	1	島田筋	1	足守歴史ふれあい通り
2	後楽園通り	2	市役所筋（区間延伸）	2	洪庵みち
3	桃太郎大通り	3	西川緑道公園筋	3	利玄みち
4	県庁通り	4	枝川筋	4	近水みち
5	あくら通り	5	けやき通り	5	間倉坂
6	市役所筋	6	石山みち	6	吉備の中山みち
7	柳川筋	7	大学病院通り	7	東畦桜通り
8	城下筋	8	旭川さくらみち	8	会陽わっしょい通り
9	烏城みち	9	並木通り	9	妹尾大寺通り
10	水之手筋	10	西大寺大学筋	10	妹尾駅筋
		11	西大寺ふれあい通り	11	三ツ池小径
		12	観音院通り	12	南ノ町筋
		13	木童こみち	13	伝三郎みち
		14	コンベックスロード	14	国体筋
		15	寺山桜みち	15	百間川ふれあいロード
		16	陣屋みち	16	東山通り



西川緑道公園筋



市役所筋

4. おわりに

道路は市民生活に不可欠なものであり、道路管理に求める市民のニーズは社会の仕組みの変化とともに、ますます多岐にわたってきているところです。このような中、市民誰もが安全で快適に道路を利用できるよう、道路管理者の責務を果たしてまいりたいと考えております。